

This is a newsletter from Shinshu University International Center (SUIC).  
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version  
[http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/publications/suicnewsletter\\_vol50.pdf](http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/publications/suicnewsletter_vol50.pdf)

◆◆◆ Vol.50 2014.9.10 ◆◆◆

◆◆◆  
信州大学国際交流センター ニュースレター  
Shinshu University International Center (SUIC) Newsletter



発行：信州大学国際交流センター(SUIC)  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

[ 今号の目次 ]

- \* ごあいさつ
- \* 最近の出来事
- \* 信大NOW No.88
- \* スタッフ近況報告 国際交流センター非常勤講師 合津美穂先生
- \* 生活ちょっとコラム



□ ごあいさつ

みなさんこんにちは！

なんと、このニュースレターもついにVol.50となりました！これまで、卒業・修了した外国人留学生のみなさんに、大学や後輩留学生の様子などをお伝えしてきましたが、みなさん楽しんでいただいていますか？

母国に帰ったり、日本やほかの国で就職した後も、こうして皆さんと繋がっていられるのはとても嬉しいことです。これからも、信州大学のいろんな情報をお伝えしていきながら、いつかまた皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

今回は同窓会の情報も盛りだくさんですよ！



□ 最近の出来事

★信州大学と韓国全南国立大学アランマクダイアミッドエネルギー研究所が  
大学間協定を締結

7月25日（金）、信州大学と韓国全南国立大学アランマクダイアミッドエネルギー研究所(AMERI：Alan G. Mac Diarmid Energy Research Institute, Chonnam National University)は大学間協定の締結調印式を行いました。

調印式に合わせて、両大学共催でのシンポジウムを開催し、両機関の研究内容の相互理解を進めました。

この調印締結により、信州大学先鋭領域融合研究群のカーボン科学研究所・バイオメディカル研究所を中心とした、カーボンナノチューブ関連の今後の研究に大いなる成果をもたらすことが期待されます。

詳細はこちら

↓ ↓ ↓  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/2014/08/post-28.html>

★留学生が松本ぼんぼんに参加しました

信州松本の夏といえば「松本ぼんぼん」！ このお祭りは、毎年8月の第1土曜日に松本で行われる夏祭りで、踊りながら練り歩く2万人以上の市民と、20万人の見物客で夏の暑さを吹き飛ばします。留学中に参加した方も多いのではないのでしょうか。

今年は、8月2日（土）に行われ、40名以上の留学生たちが松本留学生応援ファミリーの会の連（連＝踊りのグループ）や、国際交流サークル「COWIS」の連に参加し、おそろいのTシャツや、浴衣（ゆかた）、甚平（じんべい）などを着て松本の町を踊り歩きました。

写真はこちら

↓ ↓ ↓  
[http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/photo/vol150\\_bonbon2014.jpg](http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/photo/vol150_bonbon2014.jpg)

---

★2014年度春期「国際交流センター修了発表会」が開催されました

---

8月6日(水)に、「国際交流センター修了発表会」が開催されました。

この発表会は、信州大学で半年または1年の留学を終えて帰国する交換留学生、1年の日本語・日本文化研修を終えて帰国する日研生、半年の日本語・日本学短期プログラムを終えて帰国する短期留学生、または半年の日本語研修コースを終えて信州大学の大学院に入る留学生や教員研修留学生が、学んだ日本語を用いて、自らが関心を持つテーマや故郷、専門などについて発表するものです。

今年の発表会では44名の留学生が、学校やアルバイトなど日本での留学生活を通じて学んだこと、友達のこと、ボランティアの経験など興味深いテーマで発表を行いました。また信州大学の教職員や学生をはじめ、一緒に日本語を学んだ留学生、留学中にお世話になった一般市民の方など50人以上が参加し、活発な質疑応答も行われ、充実した発表会となりました。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/current/events/2014-33.html>

---

★ソウル、バンコクで国際交流同窓会を開催しました

---

8月の終わりに、ソウルとバンコクで同窓会が開催され、懐かしい顔ぶれがそろい、もと留学生や日本人卒業生が交友を深めました。

ソウル支部同窓会は、8月29日(金)に行われ、30名が参加しました。同窓生たちは旧交を温めるだけでなく、初めて会った同窓生同士の情報交換なども活発に行われていました。

バンコク支部同窓会は、8月30日(土)に行われ、日本人卒業生のタイ駐在員やその家族、もと留学生など45名が参加し大変にぎやかでした。また今年は、農学部、工学部、経済学部の先生方にも参加いただき、タイにいる同窓生と交流し、信大の現状を伝えていただきました。

今後、同窓生を中心にさらなるネットワークの広がりが期待されます。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/alumni/post-260.html>

また、ソウル、バンコクに続き、各地での国際同窓会を次の日程で開催します！

- 上海支部 9月28日(日)
- 松本支部 11月1日(土)
- 北京支部 11月13日(木)

各支部にて開催場所・時間が決まり次第、詳細は後日お知らせします。

大勢の同窓生の皆様のご参加を期待しています。信州大学の思い出やお互いの近況を大いに語り合いましょう！

---

■ □  
□ 信大NOW No. 88のご案内

---

信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介、研究者の研究内容など、信州大学が良くわかる広報誌「信大NOW」最新号の目次を紹介します。

<No. 88>

- 信大改革特集◆第2章  
学長インタビュー「信大改革と学術研究院」

## 【人事マネジメント編】 【研究マネジメント編】

- シリーズ 先鋭領域融合研究群を追求 Vol. 2  
最先端の生命科学研究を世界に発信し異分野融合研究で境界領域の新知見発掘に  
挑戦する  
バイオメディカル研究所
- 平成25年度 環境教育海外研修報告  
開発途上国が抱える環境問題 ―ネパールを訪ねて―
- 多様化する金融犯罪とどう向き合うか。  
―関東財務局・長野県警との連携特別講義、経済学部で開催―
- 信州大学知の森基金
- 信大キャンパスの「樹」シリーズ⑱  
ネムノキ 上田キャンパス

全文は信州大学の公式Webサイト上でデジタルパンフレットとして公開  
されていますので、ぜひご覧ください。

↓ ↓ ↓  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/#publication>



□ スタッフ近況報告 国際交流センター非常勤講師 合津美穂先生

こんにちは。非常勤講師の合津美穂です。ここ数日のうちに、急に涼しくなってきました。この文章を書いているのは8月末ですが、朝晩は長袖を着ないと、寒いくらいです。ただでさえ信州の夏は短いのに、もう終わってしまったかのような日が続いています。

さて、日本の夏の年中行事に「お盆」があります。みなさんが日本にいたとき、「お盆」は体験しましたか。

「お盆」とは先祖供養の儀式で、ご先祖様の霊が「あの世」から「この世」に戻ってきて家族と一緒に過ごし、再び「あの世」に帰っていくという行事です。お盆の時期は地域によっては7月というところもあるそうですが、信州では8月13日から16日までです。

この時期、家の玄関先に燃やしたわらなどが見られます。これはご先祖様をお迎えしたり、お送りするために焚（た）いた「迎え火」や「送り火」の跡です。ご先祖様が迷わないよう、火を焚いて案内します。我が家のお墓は歩いて数分のところにあるので、毎年提灯（ちょうちん）を持ってご先祖様をお迎えに行ったり、お送りしたりします。

家の中では、きれいな提灯を飾り、盆棚（ぼんだな）を用意して、ご先祖様をお迎えします。盆棚にはお花や果物などと一緒に、きゅうりやなすに割り箸を差して作った馬や牛を飾ります。きゅうりが馬、なすが牛です。

実は、私はこれまでこの「きゅうりの馬」と「なすの牛」の意味を考えたことがなかったのですが、今年のお盆に夫の両親が子供たちにしてきた説明を聞いて、初めて知りました。ご先祖様が「きゅうりの馬」に乗って「あの世」から早く帰ってきてくれますように、「なすの牛」に乗ってゆっくりのんびり「あの世」へ帰ってくれますように、という願いが込められているのだそうです。「当たり前」となっている習慣ほど、その意味を考えずにいることが多いものですが、この「きゅうりの馬」と「なすの牛」もその一つでした。

旅行者として日本に滞在しては、なかなかこうした伝統的な行事に触れる機会はないかと思いますが、留学生として滞在していたみなさんはどうだったでしょうか。



□ 生活ちょっとコラム ～夏の象徴？ 騒音？～

日本の夏もそろそろ終わりに近づいてきました。キャンパスでは、学生が夏休みでひっそりしているかわりに、蝉（せみ）の大合唱が「夏よ終わるな」とばかりに響き渡っています。このオフィスの窓の外からも、今まさに、にぎやかな蝉の鳴き声が聞こえてきます。

ちょっと待って、せみって何？と言うあなた、あなたは日本より北の（あるいは南半球で緯度の高い）国の出身ではありませんか？

日本で夏の風物詩といえば風鈴、スイカ、カキ氷などいろいろありますが、蟬の鳴き声も代表的なもののひとつです。蟬は熱帯・亜熱帯など暖かい地域を中心に生息していて、羽をこすり合わせ大きな音で「鳴く昆虫」として有名です。

もうずいぶん昔のことですが、夏にカナダを旅行したとき、広い公園の中でやけに静かなことに違和感を感じ、「蟬(cicada)が鳴いていませんね。」とカナダ人に言ったところ、「cicadaって何?」と聞かれ、そのときは私の英語の発音が悪いからとあきらめたのですが、そもそもその地域には蟬というものはいなかった、と後で知りました。

また明治時代、はじめて日本にやってきたヨーロッパ人は「なぜ木が鳴くのか」と不思議に思ったそうです。どうやら、夏に蟬が鳴いているのは当たり前、と思うのは世界共通ではないようです。

日本人にとって蟬の声は、松尾芭蕉の「静けさや 岩に染み入る 蟬の声」という有名な俳句にも詠まれているように、夏を象徴するものとして扱われることが多いと思います。しかし海外では、ただうるさい虫、と思われているようで、たとえば日本の映画で、夏のシーンで蟬の声が効果音で使われていても、海外で公開されるときはわざわざその音を消して上映されることもあるそうです。

蟬は幼虫として地中に3年から7年（アメリカには17年という種類もあるそうです!）過ごしたあと、地上で成虫となってからは数週間しか生きられない、夏のはかない命というイメージがあります。夏の終わりの夕方に、「ヒグラシ」という種類のちょっと切ないトーンで鳴く蟬の声を聞いてみると、ああ、夏もうすぐ終わりだな、という感傷に浸ってしまうのは、私だけではないと思います。

私にとって蟬の声は、子供のころの夏休みの思い出とともにあります。でも、たしかに、うるさいですけどね。

みなさんの夏の思い出は、どんなものですか？

それでは、また。

●○○●○○●修了者データベース登録のお願い○○●○○●○○●  
国際交流センターでは、留学生の帰国後のフォローアップの一環として、データベースの作成と活用をすすめています。まだこのフォームを提出されたことのない方は、ぜひ記入にご協力下さい。  
このニュースレターの配信先メールアドレス変更はこちらからお願いします。  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/alumni/database/alumni-database.html>  
●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●○○●

◆配信元：信州大学国際交流センター(SUIC) 文責：西牧  
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1  
Tel: 0263-37-3360 / Fax: 0263-37-2181  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

◆連絡先：iad@shinshu-u.ac.jp  
\*各種お問い合わせ  
\*配信停止希望  
\*メールアドレスの変更のご連絡  
\*情報掲載のご希望  
\*ご意見、ご感想 など